

2011.8.1

能登空港 航空機事故を想定し消火救難訓練

金沢医科大学能登北部地域医療研究所と公立穴水総合病院合同チームが参加

航空機事故を想定した総合訓練が7月28日(木曜日)午後5時から能登空港(輪島市三井町洲衛10-11-1)で行われた。石川県能登空港管理事務所や石川県警、奥能登広域圏事務組合消防本部、石川県医師会、能登北部医師会、公立穴水総合病院、市立輪島病院、学校法人日本航空学園など29機関から計約250人が参加。情報伝達や救助、事故現場への出動・消火活動、救護所の設置、医療機関のトリアージ・けが人搬送の手順を確認した。

訓練想定事故は、午後5時00分、能登空港チャーター便(A320型機、乗員6名、乗客110名)が、飛行中エンジントラブルを発生、緊急着陸を決定。午後5時30分滑走路東側(25側)から進入したが、横からの強風にあおられバランスを崩して着陸、滑走路を逸脱し着陸帯にて停止。航空機から煙が出ている。この事故により、乗員・乗客に多数の負傷者が出た模様。全員脱出した後に炎上する事故の想定となっている。



炎上する機体を消火



二次トリアージ現場



救急隊と連携し病院へ搬送

能登空港管理事務所からの知らせを受け、救助工作車や化学消防車、水槽車、救急車など車両30台が急行。放水の後、県警機動隊や同消防局救急隊員が日本航空学園所有YS-11を使用して同機内から負傷した約24人を担架で救出、災害時に被災地に赴く緊急医療チームの医師や看護師が手当てした。金沢医科大学能登北部

地域医療研究所からは、中橋毅教授、米澤克隆医師、濱中豊課長が穴水総合病院チームに加わり、胸部外傷患者、右下腿切断患者、眼球破裂患者、脊椎捻挫患者などの模擬患者に対する救急処置とトリアージ、各医療機関への搬送訓練に参加した。

■ 初期臨床研修指導を航空災害訓練の中で実施！

今回参加した米澤克隆医師(金沢医科大学病院臨床研修医2年目)の感想は、「同時に大量の重症患者さんが実際、押し寄せた場合は、訓練どおり対応できるか心配なところがあります。また、機会があれば是非、このような大規模訓練に参加したい。医療機関—消防—警察との連携が重要ですね。」との感想だった。



初期臨床研修医への地域医療分野を指導している中橋教授は、このような特殊な大規模消火救難訓練の中で、研修医を実践指導できることは極めて有意義なことであり、今後も能登北部地域医療研究所が提供する初期臨床プログラムの中に反映していきたいと抱負を語った。



● トリアージの分類

人材・資源の制約の著しい災害医療において、最善の救命効果を得るため多数の傷病者を重症度と緊急性によって分別し治療の優先度を決定する。

優先度	分類	色別	身体所見
1位	緊急治療	赤(I)	最優先治療群(重症群) ・直ちに処置を行えば救命が可能な者
2位	準緊急治療	黄(II)	非緊急治療群(中等症群) ・多少治療の時間が遅れても生命には危険がない者 ・基本的には、バイタルサインが安定している者
3位	非緊急治療	緑(III)	軽処置群(軽症群) ・上記以外の軽易な傷病で、ほとんど専門医の治療を必要としない者
4位	死亡	黒(O)	不処置群(死亡群) ・既に死亡している者又は直ちに処置を行っても明らかに救命が不可能な者

● 消火救難訓練の流れ

時刻	内容	実施機関
17:00	★航空機トラブル発生 初期通報 状況把握、報告 消火救難協力隊出動 予防放水	CAB、管理事務所 管理事務所 消火救難協力隊 空港消防隊
17:20	緊急車両到着 現地指揮本部設営・運営	消防機関 消防機関、消火救難協力隊
17:30	★航空機着陸事故発生 状況把握、報告 救護所設営 航空機の旅客等出入口確保 1次トリアージ、乗員乗客救出、脱出 負傷者搬送(救護地区へ)	CAB、管理事務所 消火救難協力隊 消防機関 消防機関、消火救難協力隊 消火救難協力隊
17:45	医療チーム到着 2次トリアージ、応急救護 負傷者救急搬送	◎医療チーム(ここを担当) 消防機関
17:50	★航空機炎上 航空機消火 軽傷・無傷者バス搬送 乗員乗客確認、搬送先確認	空港消防隊、消防機関
18:00	訓練終了	

